

松江藩に忍者がいた!?

忍者新聞

R4/8/8
横田 芭奈



数年前に「松江に忍者がいたことが分かった」という内容の新聞記事を読んだ興味をもっていた。しかし、知らないことや知りたいことがたくさんあったので、今回調べてみた。

忍者はどこからやってきた?

慶長五年(一六〇〇年)関ヶ原の戦いでお礼として、伊賀(三重)での争いを逃れた伊賀者(忍者)を当時の藩主、堀尾吉晴が抱えることとなり、四〇人の伊賀者を伴って、浜松(静岡県)から月山富田城(安来市)を経て、松江へ入る。つれてきた四〇人のうち、大部分が鉄砲隊だった。

なぜ忍者がいることが分かった?

清光院近くに近くに伊賀某(某ミ)なんとかという人(物)、伊賀の〇〇さんとして地図に名前が約三〇軒連なっていることが分かった。また、近くに「早道」(忍者を指す言葉)と、職名を記した住居も一〇軒近く見つかった。このため、松江藩に忍者がいることが分かった。

早道ってなに?

青森の津軽藩では、忍者のことを「早道之者」と呼んでいた。松江の地図の中に「早道」という文字が発見されたことにより、忍者の研究がスタートされた。



諜報 (情報収集)

いろいろな情報を密かに探ることを諜報活動という。敵国の兵力や食料の数、城の守りなど、戦いのときに優位になる情報を気づかれないように持ち帰っていた。

謀略 (情報操作)

敵国に二重の情報を流すことで、内部の結束を弱らせ対立を起こせたり、ときには敵将を寝返らせたりと勝敗を分ける大きな役割を果たしていた。

戦闘 (奇襲・破壊工作・暗殺)

闇夜にまぎれて敵を奇襲するなどのゲリラ戦闘、放火などの敵国のかく乱、君主の殺害など、戦いの主導権をにぎるため暗躍していた。

忍者の主な仕事

忍者の仕事は大きく三つに分けられる。



現存の地図でいうと、このあたりに住んでいた。



清光院の下北側



清光院の下



清光院の下南側

忍者の住んでいた場所
松江城の西側の清光院の下あたりに伊賀の人たちの名前が並んでいるため、そこに住んでいたことが分かる。今の地図でいうと、一中の西側の道の周辺になる。

今回、本を読み、資料館へ行き資料を集め、歴史館の方に話を伺い、調べていくと、今まで知らなかった忍者の姿に出会うことができた。知れば知るほどおもしろくなってきた。そして、改めて松江には誇れるものがたくさんあるんだなと思った。そんな松江を大切にしていきたいと思った。

編集後記

- Q. 明治以降も、忍者の子孫は松江に住みつづけたのか?
A. 1663年に堀尾が跡継ぎがなく断絶。それにより他の家来と一緒にどこかに消えた。
- Q. 忍者は学校に行っていたのか?
A. 分かっていないが、することなどが書いてある書物があり、それを使い勉強していた。
- Q. 忍者の中に上下関係はあった?
A. 分かっていない。
- Q. どのくらいの地位?
A. 身分低い。(足軽くらい)
- Q. どのくらいの給料?
A. 年収は(米)13石5斗3人扶持
一石=150kg
十石=100万円
斗=単位
3人扶持=3人の家来をもてる

松江歴史館の方にインタビュー



- 鎌倉時代~南北朝時代(1185年~1392年ごろ)
「忍び」の登場!
- 戦国時代(1493年~1603年ごろ)
忍者が最も活躍した時代!
○戦国大名が「忍び」を雇っていく。
- 江戸時代(1603年~1868年ごろ)
忍者の役割が変わっていく!
○江戸城の警備や各地の大名の情報収集。仕事が減る。
- 明治時代(1868年~1912年ごろ)
かたちを変えて新しい時代に!
○警察官や花火師、医者や薬屋などに知識、経験を活かす。

忍者の歴史